



尼崎文化協会だより

第6号 平成二十八年二月発刊

戸田左門氏鉄公を顕彰しよう

今年は尼崎市制100周年を迎えた記念すべき年であります。また小田村との解消合併から80周年を迎えます。さらには来年には近世尼崎の創始者と言われる初代尼崎城主戸田左門氏鉄公尼崎城入城400年になります。尼崎文化協会としましても以前から戸田左門氏鉄公の業績を称え顕彰碑を建てようと考えていました。そこへ昨年の暮れに「文化の町尼崎」のシンボルとしての新尼崎城建設のビッグニュースが飛び込んでまいりました。元ミドリ電化創始者安保詮さんからの新城寄贈の話であります。誠に時を得た、尼崎の文化を興す絶好の企画であります。文化協会としましても戸田左門氏鉄公の業績を偲び顕彰碑の建設について弾みがつきました。現在計画中であります。新尼崎城建設の話が出てまいりまして場所については未定ですがほぼ現在の城址公園附近、新城建設敷地附近と考えています。安保さんと話し合いを持ったり尼崎市とも打ち合わせ会を開いたり、前向きに検討中であります。尼崎市も積極的であります。戸田左門氏鉄公は元和3年7月尼崎に転封されてから、早速城建設に取り掛かり同時に見事な都市計画のもと、城下町の形成、寺町の建設さらには治水事業として神崎川の掘削(左門殿川)工事、万丈堤防の建設など大きな功績を残され、寛永12年(1635年)岐阜大垣城(10万石)へ転封されました。この戸田左門氏鉄公18年の功績を我々の手で後世に残してゆかなければなりません。これは尼崎文化協会の役割でも有りましょう。皆様方の更なるご協力をお願ひいたします。

尼崎文化協会
会長 田中 正三

一平成27年度事業報告一

平成27年5月17日 定例総会(於:商工会議所)

- 平成26年度事業及び収支決算、平成27年度事業及び収支予算等の議案全て原案通り承認されました。
- 記念講演会
講師 尼崎文化協会 副会長 関 賢二 氏

平成27年8月8日 尼崎新能(大物川緑地公園)を協賛し、幽玄な舞に堪能しました。

平成27年9月13日 秋の見学会「尼崎城史跡」を学び附近の散策を楽しみ午後は

大覚寺住職岡本元興氏の「尼崎ゆかりの講話」を拝聴しました。

平成27年10月12日 「第45回市民まつり」多数会員の参加ありがとうございました。

平成27年10月25日 大近松292年祭が広済寺(尼崎市久々知)において開催され協賛いたしました。

平成28年1月15日 新春初詣(恵方は南南東)貴布織神社で団体祈祷し、その後住吉大社、方違神社へ参拝しました。

平成28年2月14日 第13回契沖顕彰短歌大会(園田学園女子大学)
尼崎文化協会会长賞

○一般の部

尼崎市 西田 一さん

縦縞の虎ディジョンユニホーム天辺目指せ心技練磨ぞ

○児童の部

尼崎市立水堂小学校五年 塚口 航明さん

じぞうさんそこにいてよたいくつだわたしがまちへあんないするよ

○生徒の部

園田学園高等学校二年 矢田 彩夏さん

会うたびにあなたに惹かれ胸熱くもう戻れないわたしの気持ち

今後の事業予定

平成28年3月27日 お茶会

(1) 日時 午後1時~4時(3時間)

(2) 場所 尼崎市宮内町3丁目宮内公園内茶室

(3) 会費 1,000円

尚、午後0時30分より30分の間に「和田桐山氏の作品(主として茶碗)」を拝見する時間を予定しています。また近くの蓬川川沿いの桜も美しく咲く頃と思っております。

平成28年5月11日 定例総会(於:商工会議所)

後記

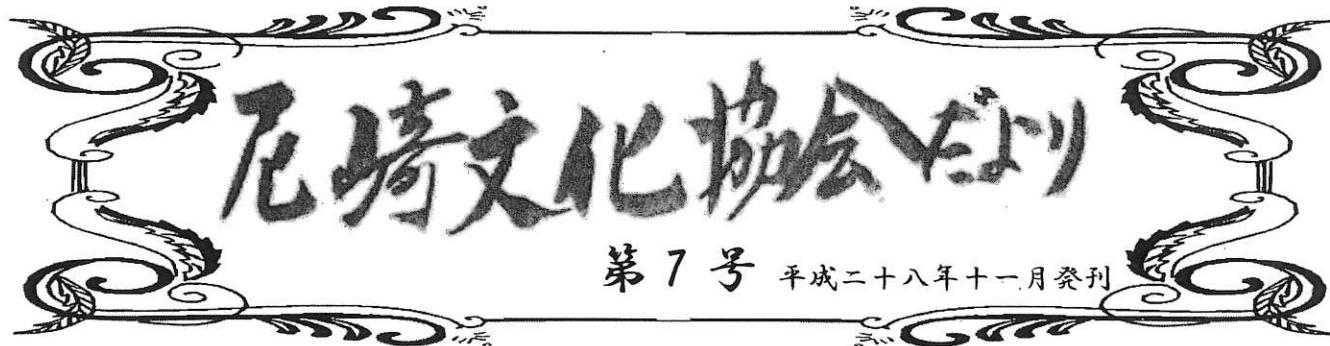
最近、高齢化等による会員の減少傾向にある中で、会員維持と増員を図るために事業の活性化と文化の情報等を会員並びに多くの方々に伝達することを目的として、「文化協会だより」の発刊を行っています。

今後皆様のご意見、ご要望を頂き、よりよき「会報」にして行きたいと思っております。

編集委員

九鬼 正隆

(事務局 TEL: 06-6401-4875)



I. 本会創立 70 周年記念事業

戸田氏鉄公顕彰碑の建立 平成 29 年 7 月 25 日除幕式予定 城址公園内
70 周年記念誌の発刊 平成 29 年 8 月末発刊 原稿〆切平成 29 年 4 月末

昭和 22 年 9 月戦後の混乱がまだ定まらぬなか当時の尼崎の文化人が結成した尼崎文化協会は来年 70 周年を迎えます。離散集合の多い会のなかで、脈々と 70 年の歴史を歩んでこられたのも先人の努力、会員の協力があってのことです。

尼崎市も市制 100 周年を迎えて、かつての重工業都市より環境を重視した産業都市へと転換しつつあります。またこの度地元経済界で活躍された安保詮氏（元ミドリ電化会長）の私財で尼崎城天守閣が平成 30 年 8 月末を目指して復元されることとなり、シンボル的テーマの無かった本市に輝きを与えることとなりました。

尼崎城の築城、河川の改修、寺社の移転等により現在の本市の都市基盤整備に尽くした戸田氏鉄公の顕彰運動はかつて市内有力経済界人により進められていましたが、未だ時期を得ず今日に至っておりました。

ようやくその好機が訪れ、念願でありました「左門殿」戸田氏鉄公の顕彰が有志会員のご理解と協力によりようやく実現に向うことが出来ました。またこの機会に併せ 10 年ごとの節目に発刊して参りました「記念誌」も発刊することとして同封通知書により原稿募集中であります。

以上二大事業は、すでに一部進行中であり、ご支援賜りますようお願いいたします。

II. 県地域文化を考えるシンポに参加（10 月 11 日）

毎年県下巡回の型で開催されるシンポジウムが本年開催は篠山市で行われ、本会より玉垣副会長、石橋会計が参加しました。今回のテーマは「文化活動とまちづくり」で阪神南文化振興団体連盟協議会を代表して当会より下記要旨を発表しました。

発表テーマ「戸田左門氏鉄公顕彰事業について」

1. 初代尼崎藩主戸田氏鉄に続いた青山、桜井松平両藩主の顕彰碑等は、市内に

存在するが、戸田氏については何ひとつなく同氏の名は左門殿川（橋）として残るもの同氏の功績については市民に極めて知られていない。

2. 近世尼崎城の遺跡は今何一つ残っていない。従って多くの市民は尼崎城が明治の始めまであったことを知らない現状にある。
3. 築城四百年、市制百年、本会創立七十年と相重なり、この機会に本市の近世都市の整備に努めた「戸田氏鉄」を顕彰することは尼崎文化協会のふさわしい事業として行うこととした。

III. 秋の学習会（10 月 4 日開催）

来年 7 月 25 日に戸田氏鉄公顕彰碑の建立予定地の見学を兼ね尼崎城址及び城内の市立尼崎文化財収蔵庫の見学と同庫内に展示の旧尼崎城の遺構について同庫の文化財担当学芸員室谷氏による解説を受けた。今回復元されることとなった新尼崎城の姿に想いを馳せる意義ある学習であった。

IV. 平成 29 年新春初詣のご案内

すでに往復はがきにてご案内いたしましたが再度お知らせします。

と き	1月13日（金）
集会場所	阪神尼崎駅北側ジャンカラ前（旧 JTB）
午前 8 時 50 分	
行 程	阪神尼崎北側（9 時出発）→貴布禰神社（正式参拝） →清荒神清澄寺（荒神さん）→がんこ三田の里（昼食） →高壳布神社→三田天満神社→めんたいパーク（見学・買物） →神戸三田 IC、宝塚 IC を経て帰着（17：30 帰着）
会 費	7,500 円（当日お納め下さい）
備 考	清荒神では鉄斎美術館に入館予定です。
参 加 申 込	12 月 20 日玉垣副会長まで（06-6411-0673）

※ “文化協会だより”も第 7 号となり今後内容も皆様方のご支援により一層充実したものにしたく今後編集に努めて参ります。

編集
関 賢二 九鬼 正隆

尼崎文化協会より

第8号 平成二十九年三月発刊



田中正三会長が平成29年2月12日に逝去されました。
2月14日(火)、阪神平安祭典会館で催行されました葬儀・
告別式において、玉垣 喜三 副会長より以下の通りの弔辞が読み上げられました。

尚、葬儀には多くの人々が参列され、ご遺徳を偲ばれていますことを併せてご報告申し上げます。

左側のお写真は創刊号(平成二十五年八月)時の会長写真です。

[弔辭]

田中正三会長！あなたはなぜかくも突然に、彼方へ行かれてしまわれたのでしょうか。去る12日の昼過ぎ、ご子息様より電話を頂いた時、一瞬私は耳を疑いました。

前々日の10日の夕方、あなたより電話がかかり一週間前に園田学園で開催された「契沖顕彰短歌大会」のことや「今後の文化協会」のことなど話されていたことが、時間にして約一日前のことであり、只々驚くと共に人の命のはかなさを痛感した瞬間がありました。

田中会長！あなたと親しくお付合いすることとなりましたのは、あなたが文化協会の会長になられた時、丁度八年前からであったと記憶しております。その当時、尼崎市内で募集されていた「街かどチャーミング賞」にあなたの邸宅を推薦し受賞されたことも思い出の一つであります。更にその後二年前、文化協会の副会長をお引き受けしてからは、よく電話やファックスで意見交換をさせていただきました。宮崎副会長ともお宅にお邪魔し話し合った事も再々でした。

そして田中会長！あなたは何よりも郷土の歴史や文化に憧憬が深くまた尼崎文化協会を誰よりも強く愛しておられました。

本年、まさに文化協会創立七十周年を迎えるに当たり、その記念事業として、尼崎にとって有意義なことをしたい。それは「近世尼崎の初代藩主戸田左門氏鉄公の業績」を顕彰することであると申され、電話の中である時「私はこの事に命をかけている」と言わされた声は、私の耳の奥に今も残っております。この事は、父君からの遺言でもあったのでしょうか。とにかくあなたの熱意が会員の心を動かし多くの賛同をえて今年の七月に

氏鉄公の顕彰碑が出来上がるという直前にあなたは彼方の地へと旅立たれてしまいました。まことに残念でなりません。

この上は会長のご意志を十二分に受け止め、会員一同で記念碑を完成させ、同時に原稿もいただいている記念誌も発行することと致します。

田中会長！本当に有難うございました。安らかにお眠り下さい。

平成二十九年二月十四日 尼崎文化協会副会長 玉垣 喜三

去る2月5日(日)に園田学園で開催された第14回契沖顕彰短歌大会において尼崎文化協会賞に輝いた方々は次の通りです。

児童の部 やきいもが ホクホクして おいしいな だけどおならしちゃってはずかしいな

(七松小1年 中村 桜也)

生徒の部 気づいたら 母の身長 ぬかしてさ 嬉しいけれど なぜかさみしい

(関西大第一中1年 立石 結菜)

一般の部 契沖の おどりに歌に 広めゆく 明日に輝く 尼の街角

(尼崎市 畠野 正博)

なお、上記短歌大会に応募された件数は、一般の部 257首 児童の部 9,967首 生徒の部 2,370首であり、総数 12,594首であった。

創立70周年記念誌の寄稿について<お願い>

昨年11月、故田中正三会長名でみだしの原稿の寄稿を会員の皆様にお願いしましたところ、1月末現在で6件(予定2件を含む)の寄稿をいただきました。

この度の田中会長の急逝もあり、故会長の想い出・回想なども含めた記念誌といたしたいと存じますので、再度重ねてお願いいたします。

記

1. 題材 自由
2. 原稿〆切 平成29年4月末日 寄稿の予定があればお知らせください。
3. 発刊予定 平成29年8月下旬
4. お問合せ及び原稿送付先

関 賢二 (記念誌編集責任者)

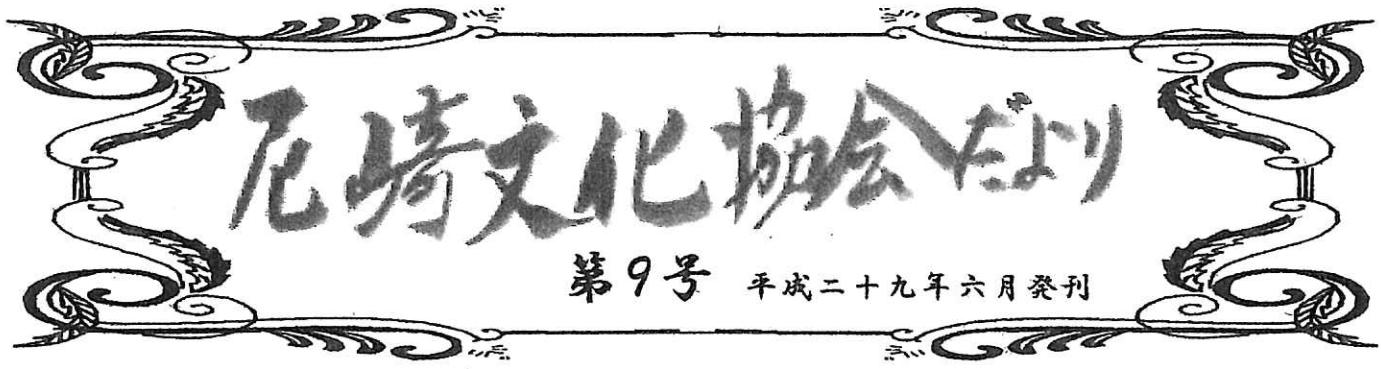
〒663-8035 西宮市北口町24-14 Tel/Fax 0798-67-2215

<今後の行事予定>

- 1 4月5日(水)会計監査会(於:玉垣宅)
- 2 4月14日(金)幹事会(於:尼崎市総合文化センター 2F ブラボウ)
- 3 5月12日(金)通常総会(於:尼崎商工会議所)

編集

関 賢二 石橋 正久



去る5月12日の平成29年度通常総会に於いて、(故)田中正三会長の後任として副会長の玉垣喜三氏が会長代行に選任されました。

会長代行就任に当たって同氏より次の通り、所信の表明がありました。

会長代行就任に当たって

玉垣喜三

第7代会長の田中正三氏が逝去されて早や4カ月となりましたが、去る5月12日の通常総会(平成29年度)に於いて、私がその後を継いで会長代行になることが決まりました。大役であります、誠心誠意つとめたいと考えております。

会長代行という型にさせていただいたのは、2つの理由があります。その1つは、(前)田中正三会長がやり残された「協会創立70周年記念事業」即ち、戸田左門氏鉄公の顕彰碑の完成除幕式(7月25日予定)と記念誌の発行(9月末)を恙無く終結させることであり。その2つ目は、早急に新たなる本格役員体制へと移行させるという意味を含めたためであります。

上記2つの理由から、来る10月には幹事会及び臨時総会を開催し、次なる役員体制を決定し、半年をかけて円満にして円滑に移行しうるよう図りたいものと考えております。

尼崎文化協会の歴史は、過去70年間 組織体の常として、栄枯盛衰はありましたが、先輩諸兄の努力により存続してきたことは特筆されることであり、その事を大切に思い、100周年に向かって存在感を示してほしい。会長代行就任に当たっての所信と致します。

以上

〈通常総会以降の実施事項と計画〉

1. 尼崎薪能(5月20日開催)について

開催月(8月)が5月に変更されたが、天候に恵まれ盛大に開催された。当協会出席者は5名。

2. 記念碑設置に関する届出について

5月23日、尼崎市役所関係部に玉垣、宮崎、田中3名が出向き、内容説明の上、届出手続を行う。

3. 記念碑除幕式及び記念誌の編集方針について

5月27日、玉垣、宮崎、関、重田の4名により会合を行ない、今後の方針を決定した。

4. 記念碑除幕式の招待者等に対する案内状の発送について

6月20日までに実施し、出席可否の確認を行う。

5. 記念碑除幕式について

7月25日午前10時より約1時間、尼崎市北城内の城址公園北西の隅地で行います。

関係者は、午前9時40分までにご参集ください。

6. 70周年記念誌編集について

記念誌原稿の寄稿を依頼したところ、尼崎市長をはじめ特別寄稿5点、会員寄稿17点が寄せられました。

これに7月25日予定の戸田氏鉄公顕彰碑除幕式関連記事等を加えた内容となります。

過去6回発刊しました記念誌と同様、充実したものにすべく努力いたしております。

なお、発刊は本会の創立記念日に当る10月4日を目標としております。

お寄せいただきました原稿の校正につきましては出来上がりしだいお届けいたしますのでその節はよろしくお願ひいたします。(関)

7. 大近松294年祭の開催について

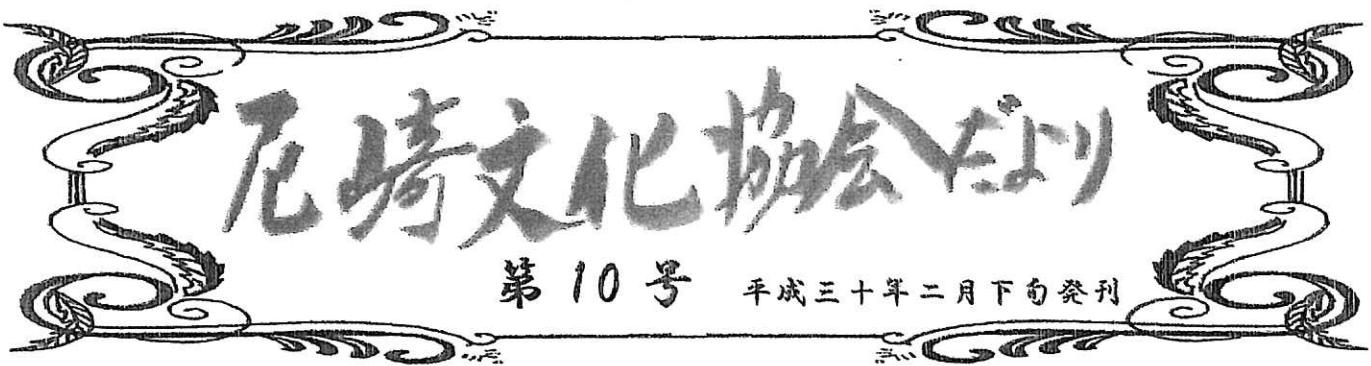
10月22日(日)午前11時より、広済寺近松記念館に於いて開催(協賛)予定です。

(追記)

尼崎城復元に関連し、尼崎市に於いて推進されている①尼崎城一枚瓦寄付②尼崎城一口城主寄付③尼崎城プロジェクトサポーター募集について、同封の説明書が当協会に送付され、協力依頼がありましたのでお知らせ致します。

編集

関 賢二 石橋 正久



1 父の一周年忌を終えて “尼崎への思いを込めて” 幹事 田中 正喜

本年2月12日、父 正三の一周忌法要を終え、今安堵の気持で胸一杯あります。早一年過ぎたかと思いますと光陰矢の如しであります。

父は、死去直前まで文化協会の70周年事業であった戸田氏鉄公の顕彰碑のこと、70周年記念誌の事、脳裏から離れなかつたことであろうと思います。死去一週間前に、70周年記念誌のあいさつ文を玉垣副会長(当時)にお渡し、少しほっとしたのであります。しかし、玉垣会長代行、関筆頭幹事ほか文化協会の役員の皆様のお陰で、また、70年間文化協会に携われた先人の皆様の思いが記念事業完成へと突き進めていったことと存じます。亡き父親に代わり感謝申し上げます。

節目の大きな記念事業を終えた文化協会ですが、「郷土文化の向上発展」が当協会の発足趣意書にありますように市役所、商工会議所、他団体との結びつきを強化連携しながら、次世代に繋げていくことが大きな役目であろうかと思います。

尼崎は、弥生時代からも開けた街であり歴史豊かな街であり、法然上人、菅原道真公、近松門左衛門、契沖、戸田氏鉄公はじめ歴代の尼崎藩主の青山家、桜井松平家等々の著名人、誇れる旧跡がある街であります。来年には、尼崎城がグランドオープンしますが、工業の街として栄えた時代もありますが、我々の「郷土愛」をもって、誇れる「文化都市尼崎」に変貌できるチャンスであり、行政と市民を巻き込んだ、郷土文化をけん引できる存在感ある「尼崎文化協会」が、今後の役割の一つになるのではないかと密かに思う今日この頃であります。

2 その他記事

(1)創立70周年記念誌の発刊

平成29年10月4日付にて掲題の記念誌を発刊し、会員及び尼崎市行政関係部門や教育部門等に配布しました。また、予算の関係より友好団体に有償(500円/冊)配付の協力を得て、予算オーバーの解消にも努めました。10月4日発刊日は、

昭和22年10月4日の協会創立日に合わせたものです。

(2)新春初詣

恒例の初詣は、1月12日(金)に実施しました。初詣の3社は、地元の貴布禰神社に正式参拝の後、奈良の春日大社・葛城一言主神社に参拝して、一年の無病息災と協会の発展を祈願しました。

参加人員は、清風会3名を含め25名で若干計画より少人数でしたが、天候に恵まれ有意義な一日がありました。

(3)契沖顕彰記念短歌大会

2月4日(日)、当協会後援の「第15回契沖顕彰記念短歌大会」が園田学園女子大学講堂に於いて開催され、尼崎文化協会賞として、次の方々が受賞されました。

(児童の部) 尼崎市立水堂小1年 柳原希亞

おともだち あつたかおでがみ ありがとう あすからげんきで
がっこういくよ

(生徒の部) 尼崎市立小田中1年 但馬由梨

秋の風 横をふわりと とおりぬけ 私をいつも 追いこしていく

(一般の部) 東京都大田区 谷田貞常夫

契沖は 黄門定家の 非に気づき 水戸黄門に 正しき傳ふ

なお、文化協会会員よりの応募に対し、次の短歌が「契沖賞」に選ばれました。

- ・児童達 契沖歌碑を見て思う 伝統文化 くれし人よ (重田守康)
- ・雨の中 契沖散歩 ゆっくりと 築城中の クレーン車見ゆる (田中あき子)
- ・お経読む いつも見ている 笑顔の眼差し 次へ繋げと 父の遺影 (田中正喜)
- ・戸田公を 傀ぶ記念碑 城内に 除幕の式に 故人を想う (玉垣喜三)
- ・古稀祝い 言われはったと 振り返る 未来を恥じて 生き直し誓う (中村昇)
- ・星空の 秘めたる夜空 無限とは 解き明かしたい 私の願い (石橋正久)

3 今後の予定

(1)監査会の日程 (3月末)

(2)幹事会の日程 (4月上旬)

(3)総会の日程 (5月中旬)

編集

関 賢二 石橋 正久